

コープ北陸 創立20周年記念式典を開催 「北陸の力をひとつにつなぐ」

6月22日(水)ホテル金沢にて、コープ北陸事業連合の発展にご尽力いただいた行政・全国の生協・お取引先・旧役員・組合員などのご臨席を賜り、創立20周年記念式典を開催しました。

石川県の虫送り太鼓の勇壮な演奏によるオープニングに続き、竹生正人理事長より当事業連合への日頃からの厚情ご支援に感謝申し上げ、「北陸の力をひとつにして」という創立の原点に立ち返り、事業連合の発展と助け合いの組織である生協の役割を果たす決意を述べました。

続いてご来賓を代表して、厚生労働省、農林水産省、日本生活協同組合連合会の方々よりご祝辞を賜り、乾杯の後、コープ北陸開発商品を使った料理と歓談をお楽しみいただきました。

『コープ北陸創立20周年の振り返り』ビデオを上映し、小形専務理事からは20周年の振り返りと、

今後の事業連合の発展に向けて決意を述べ、石川県生活協同組合連合会の横山会長理事からは、これまでのエピソードを交えたスピーチをしていただくなど、盛会のうちを終了いたしました。

これからも当事業連合は、『安全安心で豊かなくらしと協同ある地域社会づくり』にむけて、会員生協と会員組合員のみならず、地域のみならず手をたずさえて一層努力してまいります。
(コープ北陸 中村理恵)



つながりの輪



[左] 石川県ユニセフ協会事務局長 染川孝子氏
[右] 石川県生協連 青海専務理事

今号より石川県生協連とつながりのある団体をご紹介します「つながりの輪」を連載していきます。初回は石川県ユニセフ協会を訪ね、事務局長の染川孝子さんにお話を伺いました。

青海 県連や会員生協の役員が理事・評議員を務めるなどして活動を支援していますが、まずはユニセフについて基本から説明をお願いします。

染川 ユニセフ(国際連合児童基金)は第2次世界大戦が終わった翌年の1946年、子どもたちを助けるためにできた国際連合の機関で、本部はニューヨークにあります。日本でも

1949年から医療品や粉ミルクなどの支援が始まり15年の間続きました。1950年に日本ユニセフ協会(東京)ができ、1955年には財団法人化(現在は公益財団法人)し、今までの支援のお礼として全国から集まった募金をユニセフ本部へ送るようになりました。2011年、東日本大震災が起こった時は、

各国で活動していたユニセフの日本人スタッフが東北に集結して支援活動を行ったり、国内外から48億円に及ぶ募金が寄せられるなど、再び支援を受けました。

青海 石川県ユニセフ協会設立の経緯は？

染川 全国には日本ユニセフ協会と協定を結んだ地域組織があり、その多くを各地の生協が支援しています。当時23団体ありましたが日本海側がすっぽり抜けていて、コープいしかわが中心となり石川県ユニセフ協会設立実行委員会が立ち上がりました。2012年に石川県ユニセフ協会が設立され、日

消費者支援ネットワークいしかわの活動

第3回通常総会・講演会を開催 2016年5月21日(土) 石川県女性センター

第3回通常総会を開催し、全議案が可決・承認されました。引き続き(一社)消費者市民社会をつくる会理事長の阿南久氏を講師にお迎えして「消費者行政と消費者団体の役割について」消費者市民社会の実現をめざして」と題して、ご講演いただきました。

全国消費者団体連絡会事務局長時代の消費者としての活動。消費者庁長官時代には「あねご長官」として、職員への消費者目線の研修や庁内横断的なチームの結成などを通して職員を育てる一方、国民に消費者庁を知ってもらう活動を推進。現在は「消費者が自主的・自律的に行動するための『消費者力』をつけることができるように」と(一社)消費者市民社会をつくる会を設立して活躍されている阿南氏ならではのお話をお聞きすることができました。最後に「アブナイカモ」の曲に合わせて踊りも披露され、大



講演会の様子

変身し、有意義な講習会となりました。

参加者からは「消費者庁のがんばりや各消費者関連の法律等へ理解が深まった」「消費者庁の使命と行動指針があることを知り、認識を新たにしました」などの意見が寄せられ大変好評でした。講演を通して活動の方向性の示唆とエールをいただき、消費者団体の役割の重要性を再確認するとともに適格消費者団体認定に向けて活動を加速したいと思えます。(事務局 笹谷悦子)

本ユニセフ協会と協定を締結しました。**青海** 今までどんな活動をしてきたんですか？
染川 ユニセフをお知らせするついでに募金活動を行ったり、*ハンドインハンド募金活動をするガールスカウトや小中高校生、子ども会のリーダーなどの要望に応じて、募金に取り組む意義を伝える活動をしてきました。

れていても何をしているかはまだまだよく知られていません。ユニセフの活動を広くお知らせして、その活動のために募金しようという気持ちになっただけのよう広報に努めていきます。また、1990年に発効された国際条約「子どもの権利条約」の柱の一つである「参加する権利」がいま重要になってきています。子どもたち自身が参加し、自分たちの力で自分たちの生活を変えていくことの大切さを、子どもたちとまわりの大人にも知らせていきたいですね。

染川 関西・中四国の有志生協が2015年からミャンマーの子どもと女性の栄養支援を行うために指定募金支援地域・事業内容を指定した募金を行っています。ミャンマーの人々は保健栄養に関する情報が乏しいために屋外で排泄をしたり、赤ちゃんに生水を飲ませて下痢をさせ死なせてしまうこともあります。まずは子どもたちにトイレの必要性を教育し、親に伝えていくプロジェクトが進んでいます。ミャンマーでは教育で現状が変わっていく様子を見ることができました。

青海 石川県ユニセフ協会として今後どんなことに力を入れていきたいと考えていますか？

染川 「ユニセフ」という言葉は知ら



※ハンドインハンド募金のような
1979年の国際児童年から始まった「手に手を取って」を意味する事前登録制の募金活動。毎年11~12月に街頭やイベントなどで工夫を凝らした募金活動が行われている。